ISSN 2189-7883

神奈川を掘る Ⅲ

玉川文化財研究所 研究論集 2019

神奈川を掘る Ⅲ

玉川文化財研究所 研究論集 2019

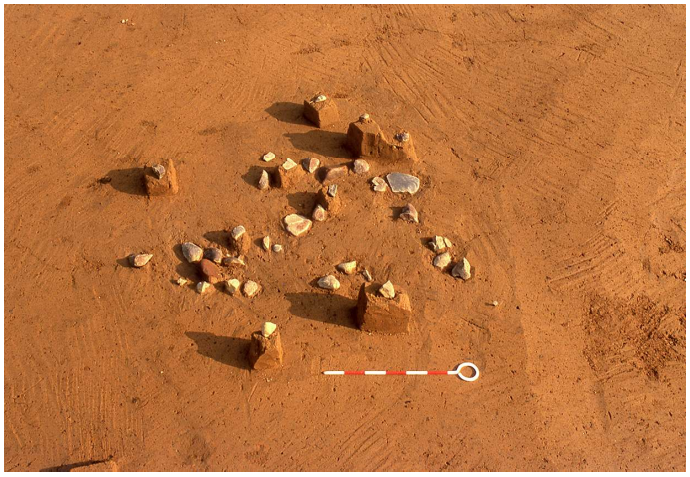
表紙カットに用いた遺跡調査写真①

大和市長堀南遺跡遠景と手前は境川
後期旧石器時代、1983～1984年調査
〈表紙下段左は第Ⅳ文化層の遺物集中部〉

第Ⅲ・第Ⅳ文化層遺物出土状態

遺跡概要

境川中流域右岸の舌状台地に立地し、旧石器時代の文化層は相模野L1S層～L2層までに計８時期が確認された。特に相模野編年第Ⅳ期に属するB1層の第Ⅲ・Ⅳ文化層からは石器ブロック52基、礫群48基が発見され、主な石器としてはナイフ形石器が200点以上確認された。



第Ⅳ文化層中の礫群

表紙カットに用いた遺跡調査写真②

伊勢原市神成松遺跡調査区全景
縄文時代中～後期、1990年調査
〈表紙上段のカットは重複する住居址群全景〉

竪穴住居址重複状態

竪穴住居址と敷石住居址の重複状態

遺跡概要

丹沢山地東側の上粕屋扇状地に位置する五領ヶ台から堀之内２式期にかけての集落である。最盛期は加曽利Ｅ３式期と堀之内１式期で、後期の集落は柄鏡形敷石住居址で構成される。周辺の調査成果からは住居址が数百軒に及ぶ大集落と考えられ、本調査ではその一部を明らかにした。

表紙カットに用いた遺跡調査写真③

横浜市観福寺遺跡群関耕地遺跡全景
弥生時代～古代、1991～1992年調査
〈表紙下段右のカットは１号環濠〉

重複する住居址群

遺跡概要

早渕川を望む丘陵の先端部に位置し、弥生中期後葉～後期中葉に至る100軒に迫る竪穴住居の存在は特に注目された。中期では環濠がめぐり、後期では朝光寺原式土器が主体の集落であることが判明。古墳前期では短剣や鉄斧などが出土した方墳４基を中心とする墓域が形成される。

２・３・４号古墳（方墳－古墳時代前期）

表紙カットに用いた遺跡調査写真④

横浜市上行寺東やぐら群遺跡遠景
中世、1984・1986年調査
〈裏表紙上段のカットは上段やぐら群〉

上段平場建物址およびやぐら群

遺跡概要

六浦湊を望む、凝灰石の岩山にあり、高さ約30m超す丘陵上に、上段・中段の二つの平場と下部崖面から構成される。44基のやぐらを中心に建物址群と多数の石塔類、人骨などが出土した。仏堂等と推測される建物址群と一体となったやぐら群は比類ないものである。

上段22号やぐら石塔類と阿弥陀如来座像

上段15号やぐら玄室の五輪塔レリーフ

下段26～29号やぐら群

上段５号（礎石）・６号（掘立柱）建物址

中段７号（礎石）および８・９号（掘立柱）建物址

表紙カットに用いた遺跡調査写真⑤

横浜市諏訪下北遺跡全景
古代、1986～1987年調査
〈裏表紙下段左のカットは調査区遠景〉

弥生時代～古墳時代前期住居址群

A群３号横穴墓玄室と高棺座

遺跡概要

丘陵の頂部に形成された弥生後期から古墳前期を中心とする集落と、その崖面に掘削された横穴墓からなる遺跡である。集落は丘陵の全域に及ぶことが推測され、前期集落は出現期古墳との関係でも注目を集めた。横穴墓は２群14基で構成され、高棺座の系譜を考える上でも注目された。

表紙カットに用いた遺跡調査写真⑥

藤沢市下土棚大下地区第１地点
地下壕本体調査風景
近代、2009年調査
〈裏表紙下段右のカットは地下壕本体部〉

Ｈ状素掘り地下壕本体全景

遺跡概要

遺跡は藤沢市北部の下土棚に所在する。写真の遺構は、南北方向の壕本体部両端に東西方向の昇降階段通路が付帯する竪穴式の地下壕で、壕全体の平面形はＨ状を呈する。大東亜戦争後期（昭和19～20年）に当地に所在した「藤沢海軍電測学校」の待避壕と推定される。

地下壕北側階段

序　　文

令和という時代を迎え、ここに「神奈川を掘るⅢ」玉川文化財研究所研究論集2019を刊行することができた。本誌がささやかではあるが、考古学研究の一端に資するものとなることを願いたいと思う。また毎号の巻頭をカラーで飾る遺跡調査写真は、遺跡の景観を大切にしながら回を重ねており、注目していただきたいところである。

さて本誌は「神奈川を掘る」と題しているが、決して神奈川県内の遺跡・遺物に限った論集としているものではない。当研究所が設立されてもうすぐ40年となるが、神奈川県を中心に調査を行ってきたため必然的にテーマが県内に集中することとなり、地域性を明らかにする意味をもって神奈川を冠したのである。

したがってテーマによっては県外に拡大されていくべきものもあるであろう。吉田浩明の論考は続編ともなるものであるが、隣接する東京都多摩丘陵に端を発し、当研究所による南八王子地区調査の成果にも立脚している。

中村若枝氏からの寄稿論文は、そもそも当研究所の前身調査団時代の資料を保管いただいていたことから、40年を経て命を与えられたものであり、多摩丘陵と港北台地を結ぶ点と線の関係が明らかとなった。

戸田の動物・人面把手に関する論考も、当研究所調査による単独資料に光をあて、東京西部・中部高地へと繋ぐ試みとしている。

このように本論集は神奈川発、あるいは神奈川帰着を目論むことが一つの目的であるが、石川真紀の３回目の押型文土器集成、金子浩昌先生の五領ヶ台貝塚出土骨角器など、埋もれている調査済資料の再検討も変らず進めてゆきたいところとしたい。

2019年８月23日

玉川文化財研究所　戸 田 哲 也

目　　次

麻生　順司　「神奈川県における旧石器時代前半期の石斧について」…… 1

戸田　哲也・中山　豊　「藤沢市江ノ島植物園内遺跡の礫斧」…… 27

石川　真紀　「大磯丘陵周辺地域の押型文土器について」…… 43

金子　浩昌　「神奈川県五領ヶ台貝塚出土の骨角・石製品」…… 63

吉田　浩明　「多摩207型陥し穴再考（２）」…… 71

坪田　弘子　「勝坂式期における土器・粗製石匙副葬の一様相」
－小田原市天神山遺跡第Ⅲ地点の分析を中心に－…… 93

戸田　哲也　「神奈川県内出土の動物・人面把手について」…… 121

太田　雅晃　「棺 座 考」
－高棺座を分析するための視角として－ …… 133

中村　若枝　「縄文時代の貝塚から貝を運んできた平安時代の人々」
－町田市成瀬西遺跡における火葬蔵骨器埋納に伴う貝で覆う儀礼をめぐって－…… 149

西本　正憲　「横浜商人が遺した遺物」
－北仲通一丁目遺跡出土遺物と近隣店舗・商社の関連について－…… 173

研究所主催発掘調査現地説明会（その１－県内各地）…… 26
研究所主催発掘調査現地説明会（その２－県内各地）…… 62
『神奈川を掘るⅠ』・『神奈川を掘るⅡ』　既刊内容…… 172